

# 「新研究領域の形成と推進方策」

○金間大介、伊東真知子、明谷早映子、  
岡村麻子、野呂高樹、標葉隆馬、  
福井啓介、三森八重子

## ◆ 新研究領域の形成における2つのアプローチ：新研究領域はどのように形成されるのか

- 異分野の研究者交流や融合から形成される研究領域（異分野融合型）
- 社会ビジョンの実現や社会的課題の解決を目指し形成される研究領域（社会ビジョン型）

## ◆ 新研究領域の形成は予見できるか

- フォーサイトの国際的発展：方法論や情報源の進化

## ◆ 新研究領域をコントロールすることは可能か

- 新研究領域のガバナンス性と社会受容性：社会の中の科学／社会のための科学

# 金沢大学の既存3学域と 融合学域のイメージ

## 人間社会学域

人文・法・経済  
学校教育・地域創造  
国際



## 理工学域

数物・物質・機械・フロンティア  
電子情報通信・地球社会基盤  
生命理工



## 医薬保健学域

医学・薬学・保健  
創薬・(医薬)



## 融合学域

### 先導学類

2021年4月設置

多様な分野における  
アントレプレナーや  
イノベーターを育成



# 論点・問題提起

## ◆ 新研究領域や融合領域をどのように評価するか

- 新研究領域や融合領域の駆動は進む

⇒ 依然として成果はインプット／アウトプット指数による管理

## ◆ (新領域を含めて) どのように新しい価値の社会受容性を高めるか

- 依然として新技術開発の意識は強い反面、需要(受容)面の検討が足りない(結局、社会が受け入れなければ意味がない)

⇒ 価値創造・社会実装のプロセス／ダイナミクスを追求すべき

## ◆ 人文・社会科学の新たな役割は？

- 社会受容性の向上とその仕組みやプロセスの検討

⇒ 経済、文化、地域資源、街づくり、社会環境、共感、幸福感等と科学技術の融合(これが「日本型」?)

- (評価等を含めた) インセンティブの設計と実証

- エビデンスベースド○○の進化(特に因果の追求)